平成１５年度福井県経済社会活性化戦略会議第８回会議概要

≪日　　時≫　平成１５年１１月２７日（木）　１６：３５～１９：４０
≪会　　場≫　県庁７階　特別会議室
≪出 席 者≫　西川　一誠　　福井県知事
上野　清治　　小浜海産物㈱代表取締役社長
新町　光示　　㈱ジャルパック代表取締役会長
竹内　幸雄　　農業経営者
前田　征利　　前田工繊㈱代表取締役社長
山下　利恵子　日本労働組合総連合会福井県連合会女性委員会委員長
山本　雅俊　　福井県副知事

≪会議内容≫

【開会】

【知事あいさつ】

西川知事：　皆様に御尽力いただいている戦略会議も今回で８回目ということで、大変ご多用の中、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございます。明日からは、１２月定例県議会が開催されますが、戦略会議の議論の方向や内容について多くの質疑があるのではないかと思っています。これまでの会議では、経済活性化戦略にとどまらず、福井県の問題についても幅広く厳しい意見をいただき、誠にありがとうございます。我々にとりましては、戦略会議からの提言をしっかりと受け止め、単に経済戦略を実践するだけでなく、仕事の仕方や目標の管理など県政全般において意見や提言を活かしていかなければならないという決意でいっぱいでございます。

県では、戦略会議からの提言を受けまして、年内に戦略構想を取りまとめ、年末から年始にかけて編成作業を行う１６年度予算に反映させていきたいと思っております。

今日お集まりの委員の皆様には、これまでのご発言を踏まえながら、県民にわかりやすい提言として取りまとめていただくよう、よろしくお願いします。

【議題】

議　長：　では、戦略会議提言項目について、これまでの発言に基づき現時点で事務局が整理した案について説明してください。

事務局：

（提言項目の内容）

１　　ものづくり技術の競争力強化

・産学官連携推進機構の設置
・きめ細やかな産学官共同研究の推進
・最先端技術の“メッカ”づくり
・エネルギー研究開発拠点化計画

・知的財産活用プログラム

２　チャレンジ企業の支援

・「出る杭」育成体制の構築

・「出る杭」支援制度の充実

・商品の高付加価値化

３　販路開拓のサポート

・県外販路開拓拠点の整備

・東アジア・マーケットの開拓

４　産業人材の育成

・ビジネススクール等の設置

・ふくい人材スキルアップ

５　ＩＴを活用した経済社会の活性化

・電子コミュニティの構築

・ＩＴビジネスの活性化

６　企業誘致の推進

・セールス活動の積極的展開

・企業誘致支援制度の拡充

７　農林水産業の活性化

・家業から企業への転換

・販売力の強化

・新規人材の導入拡大

・地場産品販売システムの構築

・福井に来ないと味わえない特産品による集客

・子供とつくる食の輪

・山の資産活用

・漁業者の顔が見える流通システムの確立

８　女性・熟年のパワーアップ

・女性企業家の支援

・お母さんサポート

・男性の子育て参加の促進

・熟年のパワーアップ

・地域助け合いビジネスの振興

９　ブランド戦略

・ブランドマネジメントの推進

・ふくいブランド県民運動の展開

・地域のブランドづくり活動の支援

・健康・長寿・食をキーワードとした研究開発の推進

・コンベンションやイベントの誘致

・スロー・ライフ再発見計画

・クリーンふくい運動の展開

・ふくいの“足”の充実

・歴史的遺産の再発見

・中国、台湾、韓国からの観光客誘致

・観光振興業務のアウトソーシング

１０　働きがい・生きがいづくり

・総合的な雇用創出プランの策定と実行
・雇用促進施策の充実
・積極的な雇用開拓の推進
・若年者就職支援ワンストップサービスセンターの設置
・ふくいのお仕事紹介所の設置
・ＩＴ・金融など専門教育の充実
・実践的な職業訓練の導入

１１　提言の実行（行政運営の視点）

議　　長：　事務局の説明に対してのご質問やご意見をどうぞ。

全体の中で県民にアピールするものが１つか２つ必要だと思いますが、その山がどこなのか見えてこない。私は「ものづくり技術の競争力強化」がそれに当たるのではないかという思いもあります。

委　　員：　福井元気宣言に書かれている内容を実施するためにうまくまとめられ、優等生的に答えを出しているなという印象です。戦略会議の中であった過激な突出した発言の中に光るものがあったと思うのですが、それがカドが取れてしまっていることで魅力を失っているのではないかと思います。予算化をするためにカドをとった表現も必要なのでしょうが、何が目玉なのかがわからなくなっています。期待をしている県民に、今までの他で行われてきた会議とは違うと思ってもらうためのキーワードが２、３はほしいと思います。

私は、「提言の実行（行政運営の視点）」の中のＮＰＭについては是非提言に取り入れたいと思っています。

それと、雇用１５０００人がどこかにいってしまっているという印象です。「ジョブカフェ」という言葉が新しい言葉でいいと思います。

委　　員：　経済に対する見方というのは、日本では売上げやＧＤＰ、株価等に目を向けがちになっていますが、欧米では雇用をどうするかということが大きな問題となっています。欧米では、雇用なき繁栄といいますか、企業のリストラにより企業の小人数化が進み、その結果として企業の収益が上がり経済の底上げをしている裏で、大量の失業者がうまれ、深刻な問題となっています。アメリカやドイツなどでも、失業率をどこまで抑えるとか、雇用をどこまで拡大するか、目標を達成するための具体的なプログラムは何かというところで国の経済政策の中身が決まってきている印象があります。

いくら雇用を１５０００人創出しても、失業者が２００００人増えてしまっては意味が無くなります。ですから、雇用に焦点を当てて、１５０００人を創出するためにどのような施策を実施していくか、どのように目標管理をしていくのか、というように雇用創出を最終目標に置いて、施策をそれにつなげていくようになるのかなと思います。

議　　長：　雇用をテーマにするということであれば、「働きがい・生きがいづくり」が最初にきて、その次に「ものづくり技術の競争力」などが続いていく構成になるかと思いますが。

西川知事：　雇用の項目を最初に持ってくる案も検討はしたのですが、雇用を創出する施策というのは他の項目に挙げている施策ということになるので、雇用の項目としてはインパクトのある内容にまとめ難いと考えて、後ろに持ってくる構成にしています。

議　　長：　私は、県内の知財をどう活かしていくかという戦略では知事が先頭に立つという表

現が必要だと思います。また産学官連携という言葉も使い古されている印象です。

委　　員：　以前の会議の中で、産学官連携を効率的・発展的に機能させるためには学の品質向上というか、優秀な教授や学生を集めて優秀な研究を行う必要があり、そのためには大学のマネジメントを考えていく必要があるという議論がありました。他県が同じようなことをしている中で勝ち残っていくには優れた学が出てこないと通用しないということで、知事がイニシアティブを取って進めていくという記載が必要だと思います。

議　　長：　「最先端技術」という言葉はあいまいで何を指しているのか抽象的で解りにくいと思います。「最先端技術」のなかでも何かコアになるものが必要です。

事務局：　「最先端技術」として比較優位を有する技術分野の具体的な例としては、新合成繊維などの合成長繊維織編物の製布技術や染色加工技術、また、産業資材向けの特殊構造製布技術や高機能性付与加工技術などを想定しています。

委　　員：　提言の内容に入っているものは全部実行していただきたいと思うのですが、財源がないと出来ないものもあって、本当に全部出来るのか疑問に思う面もあります。ですから、全部を網羅するのではなく、もっと目玉を出していく必要があると思います。

　例えば、ビジネススクールを設置しても、福井県は人口が少ないですから人が集まるのか、機能するのか、という感じがします。

委　　員：　「農林水産業の活性化」のところで新規人材の導入とありますが、福井県は２種兼業農家が多いということで、中途退職者に対しても研修を実施していくことは必要だと思います。その場合、県や市町村で認定している青年農業士などに協力してもらうこともできると思います。ただし、研修を塾という名称にしてしまうと趣味でやっている方を対象にしているようなイメージになってしまい、良くないと思います。

　本県のコシヒカリがいくら美味しいといっても、コシヒカリを輸出するようなことは可能でしょうか。米の輸出はどういうイメージなのでしょうか。

事務局：　人材育成に関しては表現を工夫させてもらいます。米の輸出に関しては量や価格の面で成功するのかどうか検討しなければならない部分も多いのですが、全国的には海外に持っていっている県もあるということです。米をもっと作るという方向でいくならば、販売先を国内にだけに絞っていてはその範囲内でしか作ることができませんから、もっと広く販売先を考えていく必要があると思いますし、米を海外に持っていくことになれば生産調整での取扱いなど国に対して要望していくことも必要になってきます。いずれにしても、米づくりをもっと進めるのであれば県としてそのような態度を明確にしていく必要があると思います。

委　　員：　「農林水産業の活性化」について、「家業から企業への転換」という項目がありますが、家族で行っていたものを集約して法人化して農業を経営していくということは、県内では可能でしょうか。

委　　員：　実際に法人化して農業経営している例もありますので可能だと思います。農業生産法人は富山県が多いですが、福井県も多いです。

議　　長：　農業に関しては、若い人が魅力を感じるような表現でまとめた方がいいと思います。

委　　員：　高い国産米よりも外国米を輸入した方がいいというような声も聞くのですが、大勢の意見としてはどうなのでしょうか。

委　　員：　今の時代は、食には安全が求められていて、少々高いお金を払っても美味しいお米を食べたいと思っている方が大半だと思います。

委　　員：　家業から企業へ移していくということで方向性としては合っているのでしょうか。

委　　員：　農業は作る品目の種類を増やさない方が作業的には楽です。しかし、それでは年１回しか収穫がないので収入が１回にまとめて入ってくるようになります。それが、作る品目を多くすることによって、４０日ごとに収穫がくるようになり、毎月とはいかなくても定期的に収入が入ってくるようになります。定期的に収入が入ってくる経営のあり方が理想ですので、そういう意味では大規模というよりも多品目を栽培するようになります。

委　　員：　例えば、多品目を作るにしても個人がいろいろな種類を作るのではなくて、数人が集まってそれぞれが違う品目を作るようにして、収入は分割しあうというのが企業の発想なのですが、そのような方向で進むことは可能でしょうか。

委　　員：　実際に個人経営か法人化するかを判断する場合は迷う部分もありますが、可能だと思います。水田で大規模化を進めている若手農家では、販売先も独自に開拓しており、代金回収も行って、１０００～２０００俵も出しているところもあります。

委　　員：　農林水産業の２次化・３次化が課題となっているのだと思いますので、加工や販売等をいかに組み合せていくか点では弱いのかと思います。

西川知事：　若い人に魅力があるように映る農業経営としてはどうでしょうか。集落に基盤を置いた集落営農と集落を離れた近代的な大規模経営とではどちらに魅力があるのでしょうか。

委　　員：　集落営農よりも個人で集落外へも出ていって仕事を探してくる方が若い人にとっては魅力的に映ると思います。ただし、自分で仕事を探している人には補助金が出ないので、その辺りを行政も考えていく必要があると思います。
　確かにこの提言の内容では、若い人に農林水産業の魅力を伝える内容にはなっていないと思います。

委　　員：　家業から企業へ移っていけば若い人にも魅力がある農業になると思います。

委　　員：　今の認定農業者もこれから法人化していくうえで、経営がうまくいっているところに勉強に行くことも必要です。

委　　員：　大規模のほ場整備をした場合に農家負担がかなり多く、それがリスクになっているのではないでしょうか。農家が負担する整備費よりも収入の方が少ないというようなことはないのでしょうか。

委　　員：　そういうケースであれば企業化しても難しいと思います。

議　　長：　福井県はほ場整備はほぼ終わっているのではないでしょうか。

事務局：　ほ場整備率は全国でもトップクラスでほぼ整備されています。これからは大規模化するほ場整備が進められます。

　農林水産業については、販売額が減っているということを認識し危機意識を持たないといけないということで、マイナスイメージを強く与えるような内容になってしまいました。また、若者に魅力がある内容をというご意見に対しては、他県で若者が法人化して農業経営している例を参考にする考えもありましたが、簡単には儲からないのではないかという意見も議論の中でありましたので記載を省きました。今日の意見を踏まえて修正させていただきたいと思います。

議　　長：　最近の若い人には、収入が減っても、企業の中で上司にいろいろ言われながら仕事をするよりも、農業をした方がいいという人も増えてきています。ですから、収入だけで考えていく必要はないと思います。

委　　員：　今までの話しから５つくらいにまとめると、
①総力結集作戦
②雇用拡大作戦
③社会活性化作戦
④ブランド向上作戦
⑤行政スリム作戦

委　　員：　「ブランド戦略」については、今まで議論してきたキーワード的なものが入っていません。この内容ではイメージアップは難しいと思います。今までイメージアップでやってきたことがなぜイメージアップにつながらなかったかということを整理して根本的に見直していくことが必要だと思います。福井はこれで日本一になるというオンリーワンになるものが欠けています。具体的には、福井県は男女とも全国２位の長寿県ですが、そのことをどのように表現してアピールしていくかというソフト、表現の仕方をもっと工夫する必要があると思います。

委　　員：　長寿を売り物にする場合には裏付けが必要になります。沖縄の場合は食べ物がありました。福井の場合は何が原因となって長寿なのかを裏付けるものが必要だと思います。

委　　員：　やはり、そうした部分の調査は必要になると思います。

議　　長：　①から④までに共通したキーワードが必要だと思います。かつては、安全と水はタダだと言われましたが、今はそうではありませんから安全などをキーワードにしていけば一番いいように思いますが。

　また、行政改革については、あまり強調しすぎない方がいいと思います。今の行政のやり方を変えるということを打ち出すだけでいいと思います。

委　　員：　イギリスやアメリカでも経済活性化するときは行政改革をしているわけですから、柱の１つになるべき大きな要素であることは間違いないと思います。行政改革によって全体の予算規模は減っても、効率的な運営をしていくとか、民で出来るものは民に任せていくと

かをアピールできればいいと思います。

議　　長：　では、１の「ものづくり技術の競争力強化」にもどって、「産学官連携推進機構」という言葉は古い言葉ですがこれでいいでしょうか。
　また、大学が地域の財産であって、知事がその先頭に立って活用していくという書き方が必要だと思います。国立大学は独立行政法人化に向けて大きく変わろうとしている今がチャンスですから、県全体が大学の知的財産を利用させてもらうことが必要だと思います。

委　　員：　それと、大学の研究の質も上げていく必要があると思います。

委　　員：　現在の産学官に参加している企業はトップクラスの企業のみで、今回の産学官連携のポイントとしては、現在よりも多くの中小企業が参加して産学官連携の中から成果を上げていくことにあると思います。ですから、産学官に参加していない民の意識も問題なのだと思います。

西川知事：　機構がどのような機能を果たすのかということが問題になってくるのでしょうか。全体をコントロールするというのとは別に何か違った役割が必要になるのでしょうか。

議　　長：　資金についてもそうでしょうが、産が大学の知恵をどう活用していくかといった場合のつなぐ役割が県にはあると思います。

委　　員：　今の大学は質が落ちていると思います。それは、大学には入学してから学生の力が伸びていくということもありますが、今の大学は入りやすく卒業もしやすくなっていて学生が育たない。ですから、民間企業が大学にこういう研究をしてほしいとか、大学のいい研究が企業に活かされるようになっていくと、学生もやる気になっていき力がつくと思います。

議　　長：　今までは教授や学生の数は決まっていましたが、これからは大学長の権限になります。そこへ県が関与していくことで大学は大きく変わることが出来ますし、今がチャンスだと思います。

事務局：　産学官連携に関する提言を受けて、県で考えてほしい施策などがあればお聞きしたいのですが。

議　　長：　福井大学は県工業技術センターの素晴らしい設備を使用したいと思っていますので、大学と工業技術センターはもっと交流すべきだと思います。まだ国と県の壁があると思います。その壁を、県が先頭に立ってイニシアティブを取っていくべきだと思います。

委　　員：　「産学官一体化作戦」になるのでしょうか。予算を一体化するとか、産からもっと研究施設にもっと資金を投入してもらうとか。

議　　長：　今は大学も必死になっていて、他県の大学からも誘いがあります。しかし、県内の大学の方がやはり大事ですから、県内の大学を何とか活用していきたいと思っています。

オブザーバー：　福井県は、そこそこのブランドはあるけれども、飛びぬけたものがない。今の福井に必要なものはチャレンジして飛び出していくことだと思います。福井県は日本の真ん

中にありますから、「ドまんなか福井ブランド戦略」というキャッチフレーズで全体を整理してはどうかと思います。

オブザーバー：　産学官連携については、産や学や行政がどうするといよりも、どういう技術を育てていくのかを決めることが必要だと思います。そういう意味で原子力技術というのもありますし、その他にも中心になる技術を決めて取り組んでいく必要があると思います。
　またブランドについては、例えば、そのブランドを農業ではどうするのか、産業ではどうするのかといった仕分けが必要になってくると思います。

委　　員：　産学官の中でも、底辺を拾い上げるのか見捨てるのかということですが、今の産学官連携は敷居が高いので、今、知事が行っておられる「座ぶとん集会」的な産学官連携というものを進めていけば裾野が広がっていくと思います。レベルは低いけれどもそこに大学の先生が入っていくという、そういうものを見つけるためにディスカッションが必要と思っています。

事務局：　産学官連携については、裾野を広げるような内容で検討しています。

議　　長：　世界の産学官連携を見ても、大学を核にしたところが成功しているという事実は認識すべきだと思います。

オブザーバー：　アメリカに行った時に産学官連携の取組みを見てきたのですが、産学官が３者集まってもすぐに何をしようということにはならないので、何か決めていくことが必要だと思います。また、そこではジェットエンジン用の燃料電池を開発していたのですが、国策なのかどうかはわかりませんが、テーマは１つに決めて研究していました。

議　　長：　会議の議論の中にもありましたが、全国的に研究されているテーマを福井が同じように研究しても無駄ではないかということで、福井が他ではやっていない独自の研究テーマを設定して取り組んで行くことが必要だと思います。そういう意味で「安全」はいいと思いますが。

委　　員：　では、そのような内容を取り入れて検討してみます。
　では、次に「チャレンジ企業への支援」については何かないでしょうか。

西川知事：　チャレンジ企業と産学官連携はどのように関係していくのでしょうか。

議　　長：　ものづくりの見方や考え方というものは小中学校からの理科教育から養われると思います。子供が発明で知事から表彰されれば大変喜ぶと思います。ですから表彰制度もやってみてはどうでしょうか。

委　　員：　やはり、最近の子供たちは創意工夫という面では弱いです。なかなか発明とか、そういう方向へは行きたがりません。

委　　員：　それでは、そうした内容も含めるよう検討してみます。

議　　長：　チャレンジすることを評価する、失敗してもまたチャレンジする風土を育てていく

必要があると思います。
　また、個人担保を求めない資金貸付が必要です。現在の１２５０万円では何も出来ません。他県から人を呼ぶくらいの金額でできないでしょうか。
　ビジネススクールはどうでしょうか。例えば、全部英会話で教えるというように、もう少し深く踏み込んで書いてはどうでしょうか。今の若い人は自分に投資して高めていく必要があると思います。自分をどれだけ売れるかという時代で、学歴だけで売れる時代ではありませんから。

西川知事：　２代目社長の育成・教育というのは観点でしょうか。

議　　長：　東京でもいろいろなゼミがあるので、福井だけやっても意味がないと思います。
　また、大学教授が民間企業にきて教育してもらえないかという話しをしましたが、独立行政法人化されれば出来るようになるようです。

委　　員：　プレビジネススクールなどは、公募でやるよりも企業単位で行ったほうがいいかもしれません。

委　　員：　学位や資格を与えないスクールでは受講する人がいないのではないでしょうか。

事務局：　修了証書を出すスクールを想定しています。

議　　長：　「ＩＴを活用した経済社会の活性化」ではどうでしょうか。これは技術に着目している内容か、ソフト面を活用しようとするものか、どちらでしょうか。

委　　員：　パソコンだけが普及しても、インフラやコンテンツがないと意味がないので、そういうものを活用することとあいまって社会が活性化していくことを想定したものです。

議　　長：　具体的には、例えば中学校でインターネットを使って何かするとか、具体的な事業が何かあるのでしょうか。

事務局：　ＣＡＴＶの普及、中高年に対するＩＴ教育の充実させて電子コミュニティの構築などの事業と、ＩＴ技術を導入してビジネスの活性化を図る事業などを考えています。学校で利用するという内容なども追加していきたいと思います。

委　　員：　パソコンを使ってパスポートを取れたりというようなことをもっと進めていこうということです。そして、福井県はＩＴ普及率が高いということをアピールしていこうということです。

議　　長：　平均的な書き方ではなく目標値をあげるなどの工夫が必要だと思います。

委　　員：　まだＣＡＴＶが普及していない地域では、インターネットをＩＳＤＮでしか利用できないようです。ですから、スーパーハイウェイのようなものがあっても、そこまでの接続が課題となっているので、県内のどこからでも高速の回線に接続できるようになるのであれば、県民にとってはメリットになると思います。

委　　員：　戦略会議は福井元気宣言の中では経済対策の緊急発動という項目の中に入っています。ですから英語教育なども重要ですが、戦略会議として提言に盛り込んだ場合に、本来の緊急発動の部分が弱くなってしまうのではないかと思います。そういう意味で、「企業誘致の推進」の内容は弱いと思います。

事務局：　企業誘致に関しては、本県は全国的にもいい誘致条件がありますので、年間述べ５００社ということで数値目標を掲げ、県外事務所を拠点に誘致活動を行うということで、即効性という点では難しいかもしれませんが、効率的に実施していくということで考えています。

議　　長：　今後についてはどのようにしましょうか。
　次回の会議では、会議で提言したものをその場で修正して、会議終了後に提言を提出するということでよろしいでしょうか。
　それまでに、事務局で作成した案を１度委員に送ってもらって委員が修正意見を事務局に返し、その意見を反映させたものを再度委員に送るということでよろしいでしょうか。

事務局：　そのように対応させていただきます。

オブザーバー：　全体を通じたテーマを決めておく必要があるのではないでしょうか。

委　　員：　まず、１０項目にするのではなく５項目くらいに絞ります。その上で、統一したテーマをつけるかどうかということについては検討させてください。

議　　長：　雇用創出１５０００、新規創業５０００ということも重要ではあるのですが、施策の結果としての数字ですので、最初に持ってくるのはどうかと思います。

委　　員：　雇用創出１５０００と新規創業５０００の目標数値の裏付けとなるような数字を提言の中に盛り込む必要はあるでしょうか。

事務局：　数字まで盛り込んでいただく必要なはいと考えています。

西川知事：　雇用創出については別途検討していますので、戦略会議の提言の中でそこまで触れる必要はないと思います。

委　　員：　福井元気宣言の文章というのは非常にわかり易い。わかりやすい文章になるようにしたいと思います。

【閉会】